



～表情～

遠隔授業の前期を終え、新しい形の夏休みを経て、後期授業の始まりを告げるオリエンテーションが行われた。久しぶりに学生が戻ってきたキャンパスには、マスク越しではあるが会話があふれる。油断のならない状況は続くが、また一つ、日常が戻りつつあることに感謝しながらその光景を見つめていると、彼らはいつもより大きなジェスチャーでコミュニケーションを取っているような気がした。なるほど、マスク越しの意思疎通はこれまで通りにいかないことを経験的に学び、応用しているのかなと感心した。

昔読んだ岡潔の本の中にある「ハチにも表情がある。ときどきふっとけげんな顔をする」とファーブルが言ったという話を思い出した(春宵十話、角川ソフィア文庫)。私たち凡人にはハチの表情を読み取れる者は少ない。それはファーブルが真摯に

昆虫と向き合って得た業であろう。

私自身、マスク越しの会議や雑談など、これまでにない経験をした中でどこかしらコロナ禍のせいにしてパフォーマンスの低下を肯定していたような気がして反省した。しかし、今回も学生に教えられた。コミュニケーションができないと嘆くのみにとどまるのではなく、真摯に向き合い、コミュニケーションを取らなくてはならないのだ。そうしなければ私たちは生きてゆけないのだと。

これからの時代、さまざまなスタイルが変わってゆくだらう。しかしそれは関係省庁の出す新しい生活を指南するポスターのどこにも見当たらない。どうやら私たち自身が経験的に学ばなければならないらしい。そしてその生活様式の根底が新しい時代を創ることになるのであろうと痛感した。

私も、これまでに増して人と真摯に向き合おう。マスクで半分以上、顔が覆い隠された相手に対しても。目は口ほどに物を言うのだから、きっとできるはずだ。

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。40歳。